

福岡県西同窓会 学術研修会

口腔インプラント治療における合併症とその対策

福岡県西同窓会学術常務理事

粉浩一(3期)

平成22年8月25日、福岡県歯科医師会第1、第2会議室において、福岡歯科大学咬合修復学講座口腔インプラント学分野教授の松浦正朗先生をお招きして講演会を開催しました。

欠損補綴を行う上で、インプラントは避けて通れない状況になってきており、それに伴いトラブルも増加傾向にあります。そこで今回は松浦教授にインプラントにおけるトラブル、合併症についての講演をお願い致しました。

講演では、外科的合併症には神経損傷、出血、骨折、埋入位置の錯誤、感染など、そして補綴処置に

関連する合併症としてスクリーや上部構造の破折、誤飲、誤嚥などがあり、治療後に発生する合併症としてはインプラント周囲炎があることや、そうしたケースで合併症を起こした症例を示され



改めて気の引き締まった講演となりました。

最後に、そうした外科的合併症を避けるためにはCTを撮って様々なシミュレーションソフトを活用し、確実な診断を立てることが重要であり、さらにサージカルガイドも作った方がいいとの結論にて、この日の講演を終えられました。

予防のために必要なこと、合併症に対する処置などについて述べられました。



講演していただいた松浦先生(写真左より2人目)と、今回のスタッフたち。

さらに重篤な合併症としては出血があり、死亡事故も起きており、舌側の骨を穿孔して動脈を損傷しなくてもオトガイ部ではドリリングで血管を巻き込む危険があるといったお話もありました。パントモでは下歯槽管まで十分な距離があるものの、下顎骨が大きく陥凹しているため、下顎大臼歯部に短いインプラントを埋入した症例を示され、加えて、上顎洞や鼻腔にはいろいろな形態があると

卒業生 NOW

「臨床・研究・教育」

村上 弘 (31期)



はじめまして。31期卒の村上弘です。私が卒業してはや2年が経とうとしています。歯科医師としてまだまだ未熟者で日々勉強の毎日を送っております。現在、私は福岡歯科大学大学院へ進み臨床、研究、教育に携わっております。二足では飽き足らず三足のわらじを上手に?履きこなしております。私はもともと欲張りで頑固で1度決めたことは是非でもやる人間です。そんな強情な私のことを理解して頂き、臨床と研究をできる環境を快く提供していただいた大学の先生方には本当に感謝しております。また、その道を歩むことを許してくれた両親をはじめ私を支えてくれているすべての人に感謝しております。

「なぜ、大学院へ?」という問いをよく聞かれます。答えは簡単です。臨床をとおして単にもっと患者様に有益な治療方法を提供したいと思ったからです。具体的にいうと既存の治療方法より良い方法で付着歯肉を作りたい、そう思ったからです。このように臨床の中にこそ患者様の利益に直結した研究テーマがあると信じています。だからこそ、臨床をしながら研究をするという形にこだわりました。研究はそんなに甘くないとい

われる先生もおられると思います。実際のところ、私自身もちょっとした壁にぶつかっており試行錯誤しております。甘い道とは少しも思っておりません。しかし、私自身研究するにも明確な目標が目の前の患者様にあるということが何よりのモチベーションになるのです。

また、大学に残るといことは後輩の指導にもあたるといことになり。私が先輩方にご教示頂いた歯科医師として歩んでいくために必要なことを後輩たちにも伝えなければなりません。どこまで伝えられるかわかりませんが、国家試験対策、臨床実習、基礎実習の中で何か教えられたらという思いで指導にあたっています。そして、彼らが歯科医師になったとき臨床家もしくは研究者としてお互いの意見をぶつけ合えたらと思います。

卒業生の皆さんにはこんなこと考えている変わった後輩がいる、在学生の皆さんにはこんなこと考えている変わった先輩が大学にいると知って頂けたらと思います。筆を執った次第であります。ひとつ欲を言うと、ただそいつは自分の信念に向かって一生懸命やっているヤツなんだと思って頂けたら幸いです。最後まで欲張りですみません。



2010AAP-JSP共催大会 ハワイにて。

同窓生からの手紙

「第62回・九州歯科医学大会」へ出席して

理事 深井 修一 (3期)

平成22年10月16日(土)佐賀県武雄市にて「第62回・九州歯科医学大会」が開催されました。当日は福岡歯科大学同窓会九州支部長会議と懇親会に出席しました。山口県からの参加でしたが、途中乗り継ぎの武雄バス停で、本部副会長の長尾先生(1期)と偶然出会い、30分程度のバスの中で一緒でした。

同じ外来のみの診療でも1ヶ月の保険点数が医科の半分にも満たない歯科。これがいかにおかしいことが、又これを打破するために何をしなければいけないかを熱く語ってくれた長尾先生。大変頼もしく感じました。学会開

催地 佐賀県 県歯会長の寺尾先生共々御活躍を願っています。支部長会議、懇親会では学生時代からよく知っている実行委員長の小川内先生や次期開催地、長崎県同窓会長俣野先生の堂々たる挨拶は大変眩しくつりました。

百数十名が集まった懇親会は、大変勢いがあり、九州から低迷する歯科界が変わるかもしれないという予感めいたものを感じました。

同窓会においては、宮口会長が5年、10年、15年かけて育てた種が次々と花開き、尾崎正雄先生(3期)が成人小児歯科学分野教授に10月19日の法人理事会で決定される模様という報告がありました。あつという間に30年以上経過しましたが、入学者が定員割れる問題も含めて、いよいよ同窓会の出番到来という感を強く持ちながら帰路山口へと向かいました。